

## 8.2 生物の生育・生息基盤

### 8.2.1 調査事項

調査事項は、表 8.2-1 に示すとおりである。

表8.2-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物・生態系の賦存地の改変の程度</li> <li>・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度</li> </ul>
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存緑地の改変の程度</li> <li>・植栽基盤（土壌）の状況</li> <li>・緑化計画</li> </ul>
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残す計画としている。</li> <li>・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する計画としている。</li> <li>・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における基準緑化をそれぞれの敷地（北エリア、南エリア、公和寮エリア）で満たし、北エリアで約79,410m<sup>2</sup>、南エリアで約5,370m<sup>2</sup>、公和寮エリアで約860m<sup>2</sup>とする計画としている。</li> <li>・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拵がりのある大きな草地の広場を設ける計画としている。</li> <li>・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。</li> <li>・植栽工事に当たっては、可能な範囲で現地土の有効活用に努める計画としている。</li> </ul>

### 8.2.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

## 8.2.3 調査手法

調査手法は、表 8.2-2 に示すとおりである。

表8.2-2 調査手法

調査事項	生物・生態系の賦存地の改変の程度 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度	
調査時点	移植作業終了後の平成30年1月とした。	
調査期間	予測した事項	移植作業終了後の平成30年1月とした。
	予測条件の状況	移植作業終了後の平成30年1月とした。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地とした。
	予測条件の状況	計画地とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

#### 8.2.4 調査結果

##### (1) 調査結果の内容

##### 1) 予測した事項

##### ア. 生物・生態系の賦存地の改変の程度

事業の実施に伴い、生物の生育・生息基盤である植栽樹群の一部が消失し、これらの緑地に依存する種の生息環境の一部が一時的に消失したほか、一部の土壌を改変したことにより、土壌動物の生息環境が一時的に消失している。

高木が生育する主要な生物・生態系の賦存地である武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹木保全を実施し、苑内については、はらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を保全している。また、苑内のモミジ、サクラ、エノキ、クヌギ等約 50 本については、4～6 月にはらっぱ広場、サクラドレッサージュ、放牧場等外構部へ移植を行ったほか、場外への移植も行った。また、プランター用樹木として、7 月にサルスベリ等約 10 本を移植した。

現在、工事の施工中であり、生物・生態系の賦存地の改変の程度については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

##### イ. 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施に伴い、生物の生育・生息基盤である植栽樹群の一部が消失し、これらの緑地に依存する種の生息環境の一部が一時的に消失したほか、一部の土壌を改変したことにより、土壌動物の生息環境が一時的に消失している。

現在は、工事の施工中であることから新たな生物の生育・生息基盤の創出はないが、その程度については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

##### 2) 予測条件の状況

##### ア. 既存緑地の改変の程度

「(1) 予測した事項」に示すとおり、既存樹木が計画に基づき維持されていることを確認したほか、苑内から外構部に移植した樹木を確認した。

##### イ. 植栽基盤（土壌）の状況

植生基盤の状況については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

##### ウ. 緑化計画

緑化計画については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

## 3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.2-3 に示すとおりである。生物の生育・生育基盤に関する苦情は、平成 30 年 3 月までになかった。

表8.2-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残す計画としている。</li> </ul>	<p>武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っている。はらっぱ広場やナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等についても保全を行っている。(写真8.2-1～写真8.2-4)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する計画としている。</li> </ul>	<p>苑内のモミジ、サクラ、エノキ、クヌギ等約50本については、4～6月にはらっぱ広場、サクラドレッサージュ、放牧場等外構部へ移植を行ったほか、場外への移植も行った。また、プランター用樹木として、7月にサルスベリ等約10本を移植した。(写真8.2-5～写真8.2-8)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における基準緑化をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410m<sup>2</sup>、南エリアで約5,370m<sup>2</sup>、公和寮エリアで約860m<sup>2</sup>とする計画としている。</li> </ul>	<p>緑地の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設ける計画としている。</li> </ul>	<p>緑地の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。</li> </ul>	<p>植栽基盤の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>植栽工事に当たっては、可能な範囲で現地土の有効活用に努める計画としている。</li> </ul>	<p>植栽工事の状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>



写真 8.2-1 武蔵野自然林の樹木保全



写真 8.2-2 外周部樹林帯の樹木保全



写真 8.2-3 ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群



写真 8.2-4 サクラドレッサージュのケヤキ



写真 8.2-5 モミジの移植状況



写真 8.2-6 クヌギの移植状況



写真 8.2-7 移植後のモミジ



写真 8.2-8 移植後のクヌギ

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 生物・生態系の賦存地の改変の程度

事業の実施に伴い、一時的に一部の生物の賦存地が消失するものの、既存樹木の保全や移植により、可能な限り賦存地の保全を行っている。

なお、現在は、工事の施工中であり、生物・生態系の賦存地の改変の程度については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

イ. 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施に伴い、生物の生育・生息基盤の一部が一時的に消失している。

なお、現在は、工事の施工中であることから新たな生物の生育・生息基盤の創出はないが、その程度については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。